

大田区社会福祉協議会 住民懇談会の実施結果

<意見まとめ>

1. 地域別の実施結果

住民懇談会の参加者数は、4地域合計で93人となり、大森地域の参加者が36人で最も多くなっています。

地域	日時・会場	参加者数	グループ数
調布地域	7月5日(水)14時~16時 鶉の木特別出張所	17人	4グループ
大森地域	7月10日(月)10時~12時 入新井集会室	36人	8グループ
蒲田地域	7月11日(火)18時~20時 大田区社会福祉センター	24人	6グループ
糀谷・羽田地域	7月12日(水)10時~12時 羽田地域力推進センター	16人	4グループ

2. 住民懇談会の意見まとめ（※詳細な意見は参考資料1～4を参照）

住民懇談会の意見は、テーマ1では540件、テーマ2では444件となっています。

地域別に意見の件数をみると、大森地域が318件で最も多く、調布地域が167件で最も少なくなっています。

地域	テーマ1の意見	テーマ2の意見	計
調布地域	101	66	167
大森地域	176	142	318
蒲田地域	142	136	278
糀谷・羽田地域	121	100	221
計	540	444	984

3. 住民懇談会の意見分類について

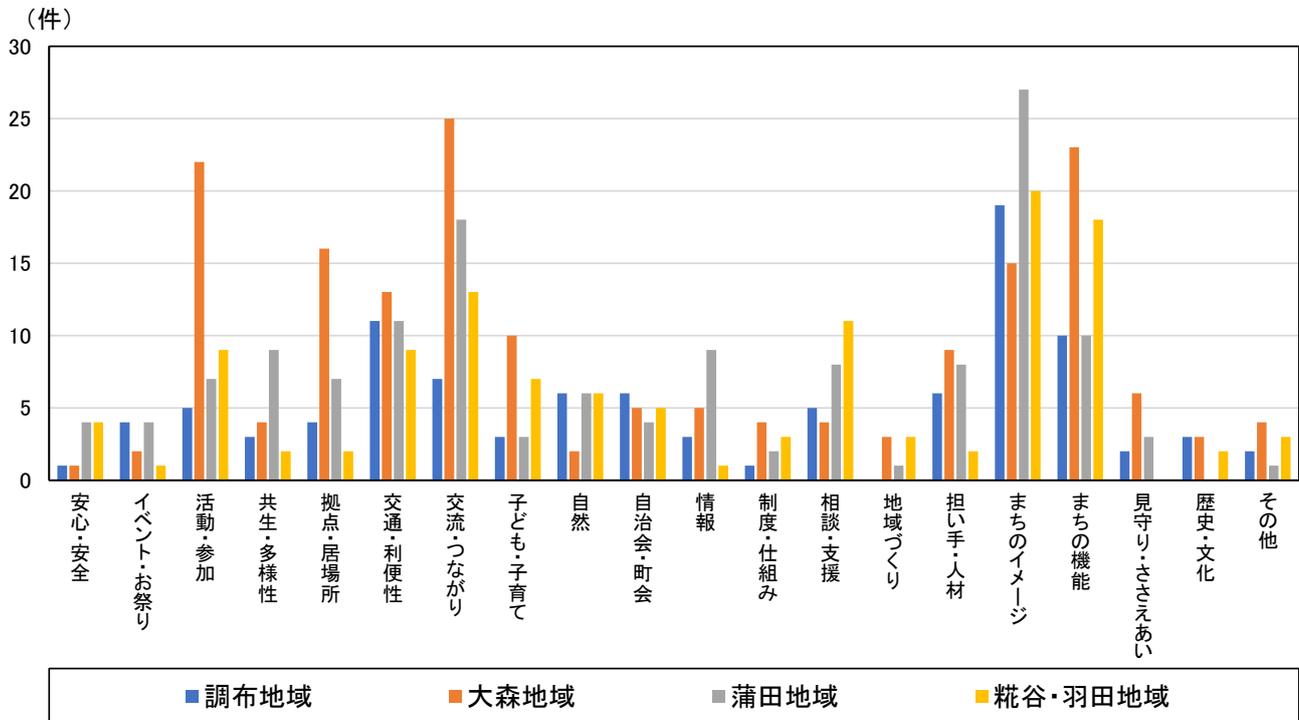
住民懇談会の意見は、テーマ1、テーマ2ごとに以下の20項目から分類、整理しています。

安心・安全、イベント・お祭り、活動・参加、共生・多様性、
拠点・居場所、交通・利便性、交流・つながり、子ども・子育て、
自然、自治会・町会、情報、制度・仕組み、
相談・支援、地域づくり、担い手・人材、まちのイメージ、
まちの機能、見守り・ささえあい、歴史・文化、その他、

4. 「テーマ1 地域のいいところ、強み、困っていることなど」の意見について

テーマ1では、「下町的」、「区内で地域格差あり」等の【まちのイメージ】や「福祉施設が多い」、「公園は沢山あるが狭い」等の【まちの機能】の区全体、地域に持つイメージの意見が多くなっています。

上記以外では、【交流・つながり】のほか、【交通・利便性】、【活動・参加】、【拠点・居場所】、【相談・支援】、【担い手・人材】、【子ども・子育て】が多くなっています。



(単位:件)

分類	調布地域	大森地域	蒲田地域	糀谷・羽田地域	区内全体
安心・安全	1	1	4	4	10
イベント・お祭り	4	2	4	1	11
活動・参加	5	22	7	9	43
共生・多様性	3	4	9	2	18
拠点・居場所	4	16	7	2	29
交通・利便性	11	13	11	9	44
交流・つながり	7	25	18	13	63
子ども・子育て	3	10	3	7	23
自然	6	2	6	6	20
自治会・町会	6	5	4	5	20
情報	3	5	9	1	18
制度・仕組み	1	4	2	3	10
相談・支援	5	4	8	11	28
地域づくり	0	3	1	3	7
担い手・人材	6	9	8	2	25
まちのイメージ	19	15	27	20	81
まちの機能	10	23	10	18	61
見守り・ささえあい	2	6	3	0	11
歴史・文化	3	3	0	2	8
その他	2	4	1	3	10
計	101	176	142	121	540

【交流・つながりの主な意見】

- 新住民・若い親・家庭などつながりづくりが難しくなってきた。
- 横のつながりが少ない。
- 世代間の交流がない。
- 若い人と高齢の人とうまくコミュニケーション取れない。

【交通・利便性の主な意見】

- 空港や駅などが近くにある。
- 高齢の方で足腰の弱い方の移動手段が少ない。
- 交通の便は地域差がある。
- 土手側は特に不便。

【活動・参加】

- 地域の為に若い男子が参加してくれるようになった。
- 子ども食堂の輪が広がっている。
- ボランティアをしたい人の相談窓口。
- 地域活動に男性の参加が少ない。

【拠点・居場所】

- 集う場所が多い。
- うぐいすネットでとれない。
- シニアが気軽に使える施設が少ない。
- 空き家を無料で提供してほしい。

【相談・支援】

- ワンストップの相談先。
- 相談窓口を分かりやすくしてほしい(分かりづらい)。
- 5080 問題に対して具体的な取り組みがわからない。

【担い手・人材】

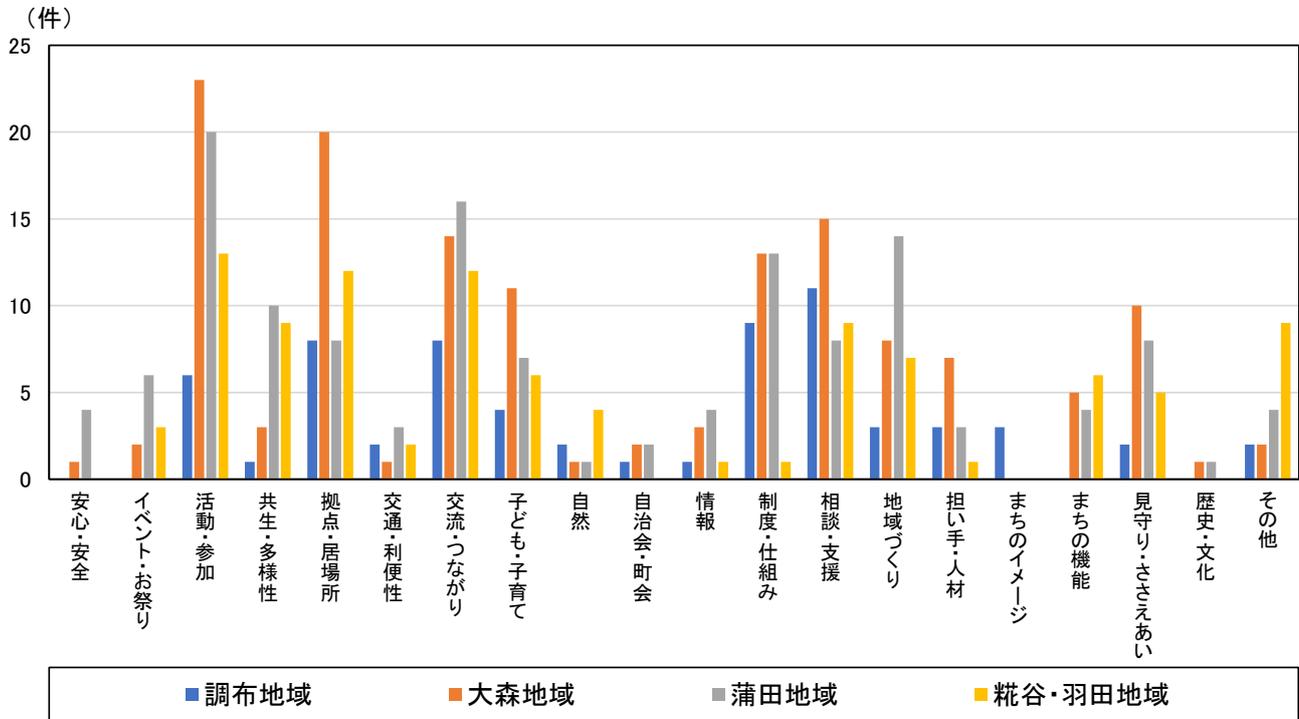
- 福祉に従事する方が減少、担い手不足と高齢化。
- コロナによってボランティアに対する情熱が冷めてしまっている。
- 町会役員のなり手がいない。

【子ども・子育て】

- 子どもの居場所が少ない。
- 子どもへの関心が薄い様に感じる。
- 子どもの居場所、ひきこもり、不登校。

5. 「テーマ2 ～5年後の地域の未来を語ろう～」の意見について

テーマ2では、【活動・参加】が62件で最も多く、【交流・つながり】、【拠点・居場所】、【相談・支援】、【制度・仕組み】、【地域づくり】、【子ども・子育て】、【見守り・ささえあい】、【共生・多様性】の順に多くなっています。



(単位:件)

分類	調布地域	大森地域	蒲田地域	糀谷・羽田地域	区内全体
安心・安全	0	1	4	0	5
イベント・お祭り	0	2	6	3	11
活動・参加	6	23	20	13	62
共生・多様性	1	3	10	9	23
拠点・居場所	8	20	8	12	48
交通・利便性	2	1	3	2	8
交流・つながり	8	14	16	12	50
子ども・子育て	4	11	7	6	28
自然	2	1	1	4	8
自治会・町会	1	2	2	0	5
情報	1	3	4	1	9
制度・仕組み	9	13	13	1	36
相談・支援	11	15	8	9	43
地域づくり	3	8	14	7	32
担い手・人材	3	7	3	1	14
まちのイメージ	3	0	0	0	3
まちの機能	0	5	4	6	15
見守り・ささえあい	2	10	8	5	25
歴史・文化	0	1	1	0	2
その他	2	2	4	9	17
計	66	142	136	100	444

【活動・参加】

- 誰もが役割を持って生きていけるようになるといい。
- ノウハウ持っている人を地域の中で活かす(地域に再就職)。
- 自分のできることをボランティア登録。
- 誰もが参加しやすい地域 子どもも、障がい者も、病気になっても。
- 社会的孤立者に対して、子ども食堂以外のシニア食堂やオトナ食堂の開催、拡充。

【交流・つながり】

- 地域のコミュニティを活発にして定期的に交流会開催(ランチ会でも)。
- 出張所を単位に学校・町会・区目団体も一緒になって活動交流会。
- 学生が気軽に交流できる仕組みがあると良い。
- 障がいのある方、高齢者接点があると良い。
- 高齢者や子どもとか交流イベントができると世代交流実現の機会が増える。

【拠点・居場所】

- 図書館(公共施設)を拠点としてもっと活用できるのでは。
- 子ども、高齢者が交流できるサロンがあちこちにある。
- 管理の問題はあるが、空き家を地域の集いの場にしてほしい。
- 障がいがあっても一緒にいられる居場所。
- 多世代、多文化のカフェ(居場所)が近くにある

【相談・支援】

- 困ったときに相談できる環境 となり近所さんでも自治会でも相談機関でも。
- 困った時にすぐに対応してもらえる所(人)。
- 地域の中で知っているコトやってみたいコトを話すミニ懇談会の常設とか。
- 要配慮者の方達 無理なくアパートを探せる町。
- ちょこっとサービスのな団体がたくさんあり高齢者・障がい者なども働いている。

【制度・仕組み】

- 町会とNPO が協力し合う。
- 中学校地域でのまちづくりの懇談できる組織。
- 面を支える(地域)中間支援NPOの創出。
- 若者と高齢者をつなげられるボランティアサービス

【地域づくり】

- 生まれ育った大田区で生活が安心して続けられる地域づくりができると良い。
- 新住民が愛着をもてる地域住み続けたいと思える地域。
- 地域のために何ができるか子ども達が考える授業が進む
- 若者と高齢者が共生できるまちづくり。

【子ども・子育て】

- 子どもを育てやすい地域が良い。
- 引きこもり不登校に対する偏見のない世界。
- フレンドホームの充実(里親制度)。週末だけ子どもを見てくれるところ。
- 子どもの権利条例が制定されている。
- 子どもに寄り添ってくれる大人が近くにいる

【見守り・ささえあい】

- 町会全体で課題のある家庭への協力ができるようになれば良い。
- みんなが温かい目でお互いを見守る社会。
- 仕事場が子育て・見守りの場となっている。
- 誰もが声をかけあえる街

【共生・多様性】

- 障害のある方、外国人、LGBT など多様性の尊重。
- 自分と違った人と(外国にルーツをもつ人)(障がい)触れあう機会、子ども時代から。
- 子ども、障がい者、誰でも生きやすいインクルーシブな社会。
- 権利が守られる社会。